星と月を広場でつなぐ

被災者の記憶に刻まれた3.11の夜空の星に着想を得た、空を見上げて星とつながるメモリアル、伊達政宗が辞世の句でもモチーフとし、その満ち欠けから変化を象徴する月に着想を得た月のホール、施設の核となるこの2つの機能を、だれもが居場所とできるひらかれた広場のネットワークによって繋ぎ、仙台・青葉山の歴史と文化を象徴する複合施設づくりを目指します。

多様な居場所となる広場のネットワークが人と機能をつなぐ

施設のエントランスを兼ねた「杜の広場」を核とし、星のメモリアル・月のホール・青葉山／広瀬川のランドスケープ、それぞれに面して設けた広場のネットワークによって人の流れ、機能の連携、そして何より、複合施設としての一体感を生みます。

豊かな周辺の自然環境とつながる広場

本敷地の周辺には、多様な自然環境が広がっています。国際センターまでのびる桜の小径、青葉山公園、仲の瀬緑地運動広場、そして対岸に広がる段丘景。それらに対してひらかれた「杜の広場」は視覚的、動線的、音環境的につながりを生みます。

こんなに残酷な状況なのに こんなに綺麗な星って いったい何なんだろうと思って
その時はじめて涙が溢れ 止まらなくなりました
-東日本大震災被災者-

星のメモリアル（中心部震災メモリアル拠点）

七夕の飾りは揺れて 想い出はかえらず 夜空輝く星に願いをこめた君の囁き　星間船一／さとう宗幸

星のメモリアル（中心部震災メモリアル拠点）は、建物の最上階に配置された施設の象徴となる空間です。星を眺める芝生広場のまわりをぐるりと展示が囲み、仙台市街地を見晴らしながら思いを触る空間をつくります。

②青葉山エリアの中での景観的位置付け、果たすべき役割など

青葉山公園の樹冠面より高い位置に星のメモリアルを配置し、景観に配慮しながら、遠くからも見える災害文化の象徴として整備します。

①建築空間の魅力と総合デザイン
③立ち寄りやすく多様な時間を過ごす人々が存在する空間づくり

空と街に向かってひらけた芝生広場（クワイエットスペース）を設け、誰もが星と仙台の街並みを眺めながら災害文化に思いを馳せられる場をつくります。

④施設計画・動線の合理的解決と実現性

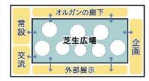
芝生広場（クワイエットスペース）を囲むように展示空間や交流連携スペースを配置し どこからでもすぐにアクセスできる動線・配置計画とします。

生活文化と鎮魂、そして音楽が一つになる芝生広場

星と芝生の間で思いを馳せる芝生広場

災害文化とは災害の記憶に思いを馳せ、未来に繋いでいくことです。私たちは東日本大震災の象徴といえる星が見える芝生広場を設け、来訪者に思索の場を提供します。遠くに仙台の街並みが見えるこの広場で、パイプオルガンが奏でる鎮魂歌を聴きながら震災に思いを馳せることが、災害文化の醸成につながるのではないかと考えます。

芝生広場を囲むように配置された展示室



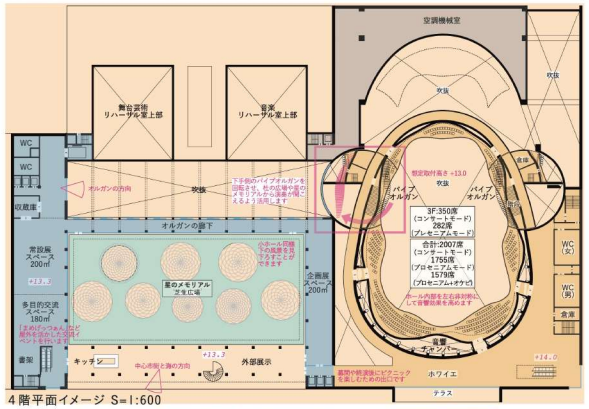
芝生広場を囲うように展示室等を配置しアクセスを向上するとともに、さまざまな展示・企画の同時開催、連携にも対応しやすくします。外部展示は敷地東面に向かってひらいており、外部展示ごしに仙台の街と海の方角を臨むことができます。

②青葉山エリアの中での景観的位置付け、果たすべき役割など

樹状メッシュ列柱と青葉山の木々が織りなす杜のシルエット

青葉山公園の樹々と樹冠面を揃えた樹状メッシュ列柱が織りなす木々のシルエットによって、周辺景観との調和をはかります。そのことにより、歴史ある広瀬川の景観文化を発信するとともに段丘景のランドマークとして美しい景観の形成に寄与します。

外観イメージ（景観との調和）



4階平面イメージ S=1:600

月のホール（音楽ホール）

曇りなき 心の月を先立てて 浮世の闇を 照らしてぞ行く　伊達政宗 辞世の句

おりしも彼らの歌声は月の光に溶け 消える、 かなしくも身にしみる月の光に溶け 消える　P.ヴェルレーヌ／C.ドビュッシー

月のホールは、仙台フィルハーモニーの本拠地であり高い音響性能を確保すると同時に、「せんくら」やコンクールを盛んに開催している楽都仙台を象徴する施設になることを目指します。市民にも馴染み深い仙台の文化的モチーフを生かしたデザインと、高い音質を確保する新しい機構を提案します。

①建築空間の魅力と総合デザイン

回転側面席により月の満ち欠けのように相貌を変えるホールをつくります。

①建築空間の魅力と総合デザイン

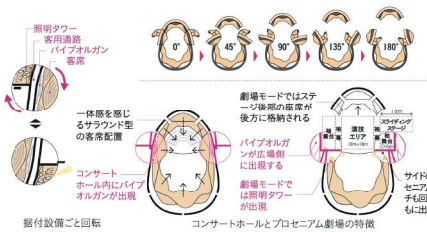
プロセニアム劇場の機能を確保しつつ、仙台フィルの本拠地にふさわしい高い質のホールづくりを目指します。

③立ち寄りやすく多様な時間を過ごす人々が共存する空間づくり
④施設計画・動線の合理的解決と実現性

公演時以外にはホワイエの一部を開放し、だれもが音楽を身近に感じられる居場所をつくります。

回転側面席の仕組みと効果

ホールと劇場の新しい転換方式として回転側面席を提案します。これにより照明タワー・プロセニアム袖壁・客用通路・パイプオルガンなど据付設備ごと回転させることができます。次の効果が期待できます。
①側壁による初期反射音やステージ後方の室容積による残響を確保できます。
②据付設備ごと回転することで両モードとも特化した空間を実現できます。
③側面席および後方席を見通しよく配置できます。
④客用通路や裏方緩動線、公演前待機場所などを集約することができます。



音響特性と仙台の文化歴史から導いた客席モチーフ

2階・3階客席の流曲線の形状は、舞台側立ち上がりを音響反射板として有効に生かすように考慮されています。客席配置によって生まれる平面的な凹凸に合わせて見付を連続的に変化させます。初期反射に寄与する凸面の見付を大きく、カラーレーションの原因ともなりうる凹面の見付を小さくすることで豊かな音を実現します。
加えて、仙台は安土桃山文化が花開いた歴史があり、その時代の産物である瑞鳳殿の甍股などはエレガントな曲線と金色の絢爛なデザインが施されており、この仙台の煌びやかな文化へのオマージュとも言えるでしょう。

瑞鳳殿・大崎八幡宮の甍股

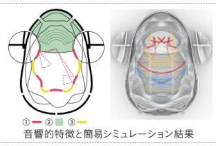
伊達家陣羽織の「星」と呼ばれた水玉紋様

仙台伊達家の宝物に「紫羅背板地五色乱星同」とよばれる水玉模様柄の陣羽織があり、昔は水玉を「星」と称したことがわかっています。芝生広場の水玉柄の開口はまさに仙台に昔から伝わる星を模した紋様、と言えるでしょう。

コンサートホールの音響的特徴

プロセニアムアーチは分割設置・収納されます。両サイドとコーナーは回転側面席内、上部はフライタワー内部に収納されます。また、開口幅や高さも調整可能なつくりとします。

期待される音響的特徴として
①側方壁や客席壁の凸面による初期反射音の供給
②ステージ後部の室容積確保による残響音の補強
③凹面に拡散体利用によるカラーレーション等の防止
といったものが挙げられます。
簡易シミュレーションからも側面壁によって初期反射音が効率的に客席側に伝達されているのが確認できます。



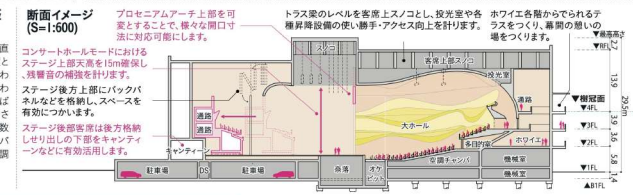
音響的特徴と簡易シミュレーション結果

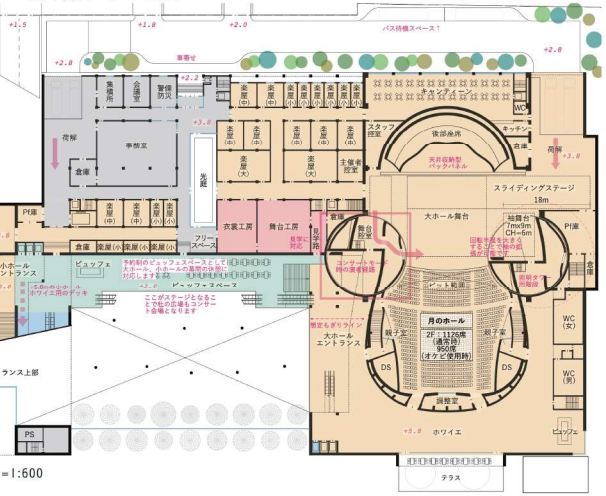
回転側面席のパラメーター調整

適正化の例

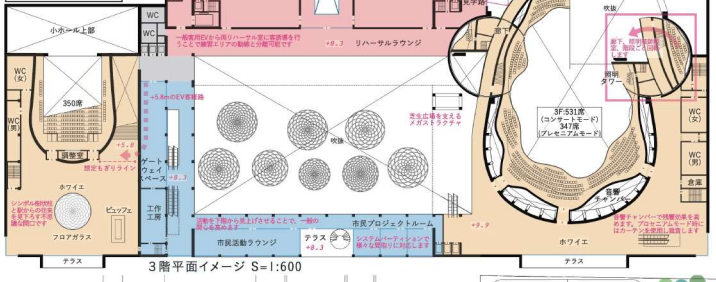
回転側面席は、機構の直径、中心位置、回転角度といったパラメータのくみわせでさまざまな条件に合わせることができます。例えば舞台裏の袖舞台の大きさや、ステージ前後の客席数のバランスなど、これらのパラメータ調整を通して、調整が可能です。

断面イメージ (S=1:600)





2階平面イメージ S=1:600



3階平面イメージ S=1:600

杜の広場（交流イベントロビー）

森の都の花乙女 月に棹さす廣瀬川　若きひと夜の戯ごころ 仙臺、仙臺、なつかしや　西條八十／古関裕而

杜の広場は来訪者を出迎え、居場所を提供し、施設内を移動するうえでの起点となる空間です。青葉山の木々に着想を得た樹状メッシュ柱たちは屋外広場そしてその先の青葉山の自然へと連続します。大小ホール、屋外広場、メモリアルなどあらゆる場所に行くための動線が集約されたメインハブと言えます。

①建築空間の魅力と総合デザイン
②青葉山エリアの中での景観的位置付け、果たすべき役割など

樹状メッシュ柱により、青葉山公園の樹々と連続した空間をつくり、来訪者の視線を上へ上へと誘います。

③立ち寄りやすく多様な時間を過ごす人々が共存する空間づくり

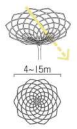
月のホール・星のメモリアルなどとつながる動線上のハブとし、来訪者が思い思い過ごせる、居場所と賑わいの広場を目指します。

屋外広場との連続性／樹冠面の

杜の広場東面に大きく開口をあけ、樹状メッシュ柱の列柱をつくることで屋外広場との連続性を生みます。また、青葉山公園の樹々の高さと揃えた樹冠面のレベルを設定し、周辺環境との調和を図ります。

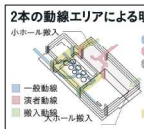
樹状メッシュ柱

段丘景の樹形に着想を得た樹状メッシュ柱は、300φの丸鋼を鋳鉄で繋げ合わせて作ります。このメッシュが上に向かって螺旋形に広がり、床を支えます。さまざまな樹径、メッシュ密度を組み合わせることで、空間に多様な場所性をうみます。



屋外広場、ホワイエ、そして芝生広場が面している動線の核となる杜の広場

2本の動線エリアによる明快な動線計画



杜の広場の両側に2本の動線エリアを設け、その周りにエスカレーターとEVを配することで表裏の動線を明快に処理します。一般客はピュアフェスペースを右周りに上ると大ホール、左回りに昇ると小ホールと星のメモリアルに至りますが、最上階の芝生広場でこれらがつながります。